

令和5年度 アーツ前橋事業評価調書

基本事項	事業名	前橋の美術2024　ーやわらかなバトンー												
	会期	2024/3/2-3/26　22日							開館日数	22　日間				
	会場(ギャラリー)	アーツ前橋、広瀬川朔太郎橋付近、前橋市役所1階							実施方式	02自主企画・名義共催方式				
	観覧料	無料						出品点数	134点 (館内131点、館外3点)					
	担当者	学芸:出原　均、辻　瑞生　　事務:徳野裕一、酒井大樹												
	目的 (一覧表)	前橋ゆかりのアーティストの活動を通して、地域の芸術文化の現在を知ることができる。また、地域とアーティストの協働活動によって、次世代を担う若者や子どもたちに知己の芸術文化を継承することを目指す。												
	キーワード	前橋の美術　協働　福祉施設　地域　市民　文化活動　共同代表												
	他団体との連携 (共催、協力等)	主催:前橋の美術実行委員会(共同代表　喜多村徹雄、多胡宏、長竹真典、ヨシダノボル)												
		共催:上毛新聞社、　協力:市内10ヶ所のギャラリー、前橋100人カイギ												
出品作家	ヨシダノボル(共同代表)含む59組60名													
関連イベント	①ギャラリートーク　3/2、3/9　のべ4回、のべ参加者数　102人													
	②パフォーマンス　3/2　参加者数30人													
	③プロジェクションマッピング　3/2深夜　参加者数78人													
	④建築ツアー　3/3　参加者数12人													
	⑤トーク&ディスカッション　3/3　参加者数25人													
	⑥ダンス　3/9、3/23　のべ参加者数　37人													
	⑦ワークショップ　3/10　3回　のべ参加者数25人													
	⑧シンポジウム「バトンをやわらかくするためのトライ&エラー」　3/24　参加者数30人													
① 投入（支出）・③ 結果（収入）	印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録							
		1,100部	44,000　部				800部							
	収入／支出	収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳								
						観覧料	助成金	他						
		予算		3,000,000　円		667　円			0　円					
		決算見込		2,611,086　円		595　円			0　円					
		差額		-388,914　円		-								
予算／決算	#DIV/0!	87.0%	#DIV/0!	89.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!							
② 内容・活動	〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	前橋にゆかりのある表現者やギャラリー関係者、アーツ前橋によって組織された実行委員会が企画・運営を行う展覧会として2017年に始まり、今回3回目。館内と館外での展示のほか、市内ギャラリー等と連携し、期間中に出品作家を含む企画展の実施や、市内の学校や福祉施設等でのアート活動の支援、各種イベントを開催した。											
	〔②活動〕主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 エピソード	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	・「前橋の美術2024」特設ページを開設した。 ・ワークショップやトーク、建築ツアーなど出品作家から企画を募り、関連イベントを実施した。 ・展覧会と同時期に市内ギャラリー各所で連携企画展を開催した。 ・市教育委員会・教頭会で展覧会の紹介をした。 ・屋外設置の彫刻作品を事前に広瀬川付近に設置し、展覧会をアピールした。											
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	県内中心にプレスリリースを行った。共催の上毛新聞社で作品紹介する連載記事が掲載されたほか、朝日ぐんまや毎日新聞地域欄で取り上げてもらった。 定例記者会見やまえばしCITYエフエムなどの取材に、共同代表が出席、出演することで、市民連携を印象付けることができた。											
		新たな試みの実績	運営面では、4人の共同代表制を敷いた。 彫刻作品の屋外展示をおこなった。 「前橋100人カイギ」登壇者が複数出品していたため、同カイギが協力企画を実施したことで、美術分野以外と連携できた。											
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	館外イベント	合計(人)	日平均(人)	
		4,034								15	249	90	4,388	199
		91.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	5.7%	2.1%			
	一般指標	指標	目標値		達成値		達成率		特記事項					
		入場・参加者数	4,500　人		4,373　人		97.2　%		イベント参加者を含む総数 ギャラリー入館者　3884人					
展覧会満足度		80　%		87.0　%		7.0　pt		アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)						

令和5年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	前橋の美術2024 ーやわらかなバトナー			
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(共同代表制を敷いたことで、意思決定および責任の所在が曖昧になり、進行に影響することがあった)			
④ 成果	〔④成果〕 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	前橋市民、若年者層		
		成果	アンケートの回答者は、前橋以外の方が多く、前橋市民に美術館に足を運んでもらう目標がどの程度できたのかははっきりわからない。ただ、入館者数が伸びなかったため、前橋市民の来館も、それに比べて少なかったと思われる。		
		ねらい1 (転記)	アートにかかわる様々な事業ネットワークを形成する		
		成果	市内の10ギャラリー、私設美術館1館が賛同して連携企画展を実施した。前回からの継続事業とし「あーとゆい」の活動も行い、市内福祉施設や中学校にアーティスト派遣事業を実施した。 28企業・団体および個人6名から総額639,730円の協賛を得た。		
		ねらい2 (転記)	参加作家の多様化		
		成果	実行委員会の権威性を回避するため、今回は過去の展覧会参加者による相互推薦によって参加者を選出した。過去最大の出品者数となり、初出品者も●名と、多様な作家を選出できた反面、選出の責任は曖昧になった。		
		ねらい3 (転記)			
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1 参加作家のその後の活動を評価⇒展覧会初出品参加の一人が、地域紙の取材を受けた。			
		2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日、記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒学校や福祉施設へのアーティスト派遣企画「アートゆい」は、今後も継続的に活動を行っていくこととなった。 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒後日、記入 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒地域ゆかり作家の発掘の機会となった。 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒後日、記入			
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る
	含目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	②.良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	実行委員のなかに市職員も名前を連ねたため、実行委員と事務局としての業務分掌が曖昧なところがあり、事業の進行に支障があった。 実行委員のなかでの情報共有が不十分で、展示設営、イベント実施等で作家へのケアができないこともあった。 展覧会参加者による相互推薦によって参加者を選出したため、選考基準の曖昧さを指摘された。 実行委員の半数が入れ替わるため、展覧会準備途中から実行委員会に参加した3名が残り、共同代表4名は辞任した。明確な引継ぎがなされない状態で次回の実施に向けて動き出すことになるが、組織としての「前橋の美術」の長期的な主体性や目的を考え直す必要がありそうだ。			
引継ぎ事項 (特記事項)		・実行委員会の座組が固まったら早急に覚書・委員会規約・業務分掌を策定する ・前橋の美術の主体や目的について協議する			
コメント・意見	館長 副館長	外部実行委員が主体となる企画の中で、館使用方法・予算執行・合意形成など共同代表と館職員が手ね位に意見交換を行いながら開催を迎えることができた。市内・地域の各方面関係者から開催期待の声の大きい展覧会の中、今後の開催方法について、引き続き新実行委員と意見交換を進める必要がある。			
	運営 評議会				

最終更新日: R6.9.25